

# 駅ボランティア

この記事はもともと中国語で書かれ、QQ 空間で公開されました。

春節に故郷へ帰る出稼ぎ労働者を思い浮かべると、たいていの人は両手に重い袋を持ち、肩にも何かを乗せて、故郷へと歩く姿を想像するでしょう。

実際、今回、春節ボランティアプラットフォームを通じて、彼らの新年への帰郷の旅をより間近に目撃しました。その中で最も心を打たれたのは、顔に皺と苦労の刻まれた中高年の男女でした。彼らにとって、故郷へ帰ることは一年で最も重要な出来事です。

もし彼らが新年を家族と再会できず、大晦日と春節を広州で過ごさなければならぬとしたら、その年は彼らにとって無意味なものとなるだけでなく、来る年も異郷で働く意欲を失ってしまうでしょう。

しかし、ほとんどの人が幸運にも故郷へ帰れる一方で、電話を握りしめ、延々と切符を求めて電話をかけ続け、大晦日までに帰郷できない人もいます。愛する妻や子供たちが遠く離れた故郷にいるなら、その離別の苦しみは、心に刃物が突き刺さるようなものでしょう。「佳節倍思親、元日思家、除夕思家」という言葉がまさに当てはまります。

彼らは広州の住まいから琶洲展館へ行き、長い廊下を通って待合室へ入ります。ゆっくりと時間が流れ、ようやく駅へ出発し、列車で 10 時間以上立っぱなしで過ごし、おそらくはガタガタの田舎バスに乗って、ようやく故郷に到着します！ついに故郷へ！しかし、家族に会うため、新年を故郷で過ごすために、彼らはすべてを耐え忍びます。彼らは王宝強が歌う歌のように「金持ちだろうが貧乏だろうが、新年は故郷へ帰ろう！」そして、乗客の中には王宝強の映画「人在囮途」のような人もいます。

ある中年の乗客は、ボランティアを見て、すぐに自分の時間管理の成功を共有しました。「私の電車はあと 4 時間で出発するから、絶対に間に合うよ。」ボランティアは困惑しました。4 時間後といえば午後 4 時ですが、その時間帯には電車は出発せず、夜と早朝のみだったからです。そこでボランティアは中年男性に「切符を確認してください」と言いました。中年男性は地元の方言で「午後 4 時、そうだ」と言いました。彼は言葉では自分の自信と楽観主義を表現できないと感じ、胸を叩いて「心配しないで、間に合うよ」と言いました。ボランティアは「午後 4 時には電車は出発しません。切符をもう一度よく確認してください」と言いました。それを聞いて、中年男性は笑顔で切符を取り出してよく見ました。そして、満面の笑みで切符をボランティアの前に掲げ「ほらほら、電車は 4 時 12 分だよ、間違えるわけがないだろ」と言いました。ボランティアは渋々「それは午前 4 時ですよ」と言いました。その瞬間、中年男性は…

もう一人の主人公、これも中年の女性ですが、展示場に入るとすぐに意味不明なことを言い始め、呆然していました。故郷へ帰れるのが嬉しくて興奮しすぎているのでしょうか？それとも旅の苦労に圧倒されているのでしょうか？それとも長年切符が買えず、今年やっと…でしょうか？もしかしたら、いつも広州の人々は冷酷で無情だと考えていた彼女が、私たちのボランティアの献身的なサービスに感動したのでしょうか？理由はどうあれ、白いテントの下の医療センターで鎮静剤の注射を受けた後、中年女性はようやく正常に戻り、現実を受け止めました。

中年女性は私たちの医療スタッフの世話のおかげで再び笑顔になりました。医療スタッフはそれを心から喜ぶでしょう。これがボランティア活動の真の理由です。

乗客が迷うことなく待合室を見つけ、笑顔が満開になっているのを見ると、世界が少し良くなったように感

じます。そして、彼らがボランティアの誠実なサービスと温かい歓迎を本当に感じるとき、彼らは世界はまだかなり美しいと感じます。彼らは温かさの力を本当に感じています。そうでなければ、彼らの笑顔はそれほど誠実なものにはならないでしょう。

そして、ボランティアの目には、自分たちの存在のおかげで、世界が少し良くなったように見えます。たとえそれが琶洲展館に比べてアリのような小さなものであっても、ボランティアの目には、自分たちが創造したもの、自分たちが世界にもたらしたものなのです。そのため、他者の幸福のために働くことは、自己価値の実現、自己認識の向上、幸福の増大につながります。

ボランティアの同僚が昨夜あったことを教えてくれました。彼女は混雑した場所で若い女性がバッグをなくし、非常に不安になっていたと言いました。それが本が2冊と鶏肉の唐揚げが数個入ったようなどうでもいいバッグだったら、彼女は振り返ることなく立ち去っていたでしょう。私の同僚は「大丈夫、大丈夫」と言いました。そして、同僚は数人に電話をかけ、結果が出ないかもしれない搜索を始めました。琶洲展館でまたコメディーが上演され、神はそのコメディーの監督でした。搜索がほぼ終わったと感じたとき、神は私の同僚を、不安と悲しみに満ちた顔をした女性乗客の前に、バッグを持って現れさせました。女性乗客は…

長い時間の後、女性乗客は感情のジェットコースターから回復しました。バッグの中身はわかりませんが、女性乗客は同僚の電話番号を熱心に尋ね、後で感謝の気持ちを伝えたいと言っていました…

私のクラスメイトの多くも春節の帰省ラッシュの最前線で働いています。彼らは旧市街で何日も働いたのでしょうか？彼らと比べて、私は何者なのでしょうか？

私もいくつかの友人を作りました。その中には、広州大学のリーダー2人も含まれています（3日間一緒に働きました）。広州大学のリーダーは、よく手押し車で乗客の荷物を待合室まで直接運び、そのためよく不在でした。華南理工大学のリーダーは仕事が終わると戻ってきて「相棒はどこだ？相棒はどこだ？」と聞いてきました。私はいつもそれについて笑います。「相棒」という言葉がとても素晴らしい使われているからです。「相棒」という言葉は、愛情深く、少し子供っぽいですね。彼らは3日間一緒に戦い、兄弟よりも親密になりました。

戴川琪という女の子にも会いました。彼女は幽霊の活動のことを想像するのが好きで、少し伝説的なオーラを持っています。彼女は最初に分かりにくい質問をし、それから核心的な質問をします。「あなたの列車番号は…あなたの列車は何時ですか？」

私を最も感動させた人々と出来事には、最終的に道路が閉鎖されていることを教えてくれた若い女性ボランティア、国家公務員試験を受けていてG4をよく見ている冷静沈着なボランティアリーダー、春節の帰省ラッシュの苦労を自ら経験したため、今年広州でボランティア活動をしている湖南出身の同僚、看板には「3冊10元」と書かれているが、隣にある雑誌にしか適用されないと言った本の屋台の女の子、保安検査を通らず「ハンマーを持っていない、ハンマーを持っていない」と大声で主張した無頓着な乗客、使い捨てカップに入った水を渡した時にお金を払う必要があるかどうか尋ねてきて、「0円」と答えると驚いた可愛い女の子、私の背中で詠春拳の腕前を試して手押し車をスケートボードにした無邪気な中学生の少年、お弁当に感謝の意を伝えると「どういたしまして」ととても陽気な声で言った配達のおばさん、ジャスミン茶（外では3.5元で売られている）が1.5元でしかないことを教えてくれ、1分半かけて決して高くないと説明してくれた可愛い男の子、1時間乗客に手を振って、北朝鮮の人々が人民解放軍と別れを惜しむ様子と出稼ぎ労働者たちがボランティアと別れを惜しむ様子を再現した碧瑩と迪、午前3時まで琶洲で働き、インスタントラーメンを食べて内分泌のバランスを崩し、ニキビができる、シンクの上に立ってヘアドライヤーで足を乾かしていたクラス

メイト、琶洲の毛布の匂いを忘れられない李凱とその仲間たち…彼ら全員に、素晴らしい思い出をありがとうございました…

次に、私に新しい経験をもたらしてくれたものにも感謝したいと思います。駅近くの Wi-Fi 付き 40 インチタッチスクリーンコンピューター（私たちはそれを通るときどのような印象を与えるかを議論しました）、中学生の少年がじゅんけんに勝った後、一緒に試してみたかった保安検査機、出稼ぎ労働者に食料とケアを提供するためにはほぼ原価で商品を販売していた政府支援の食料品店、質と誠実さで、高価格と低品質の状況を打破した、肉 2 品と野菜 2 品の料理がわずか 8 元で提供されていた屋台、「厚黒学」、「低姿勢」、「この人達には要注意」、「三分耕耘七分養生」などの本が並んだ本の屋台、摩擦がほとんどなく、開校と閉校時に欲しいと思った、滑り続ける手押し車、髪を洗った後散歩に来たという人がいた展望台（私はそこで干物を干していました）、珠江と真珠江の新市街が見える展望台。

さて、読者の皆さん、夜遅くに訪れていて、まだシャワーを浴びていないのであれば、髪を洗って寝ましょう。春節ボランティア派遣センターとすべての同僚、そして出会った乗客の皆さんに改めて感謝します！また、金持ちだろうが貧乏だろうが、すべての旅行者が新年は故郷へ帰れることを願っています！